

(19)日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-90835

(43)公開日 平成8年(1996)4月9日

(51) Int.Cl. <sup>a</sup> B 41 J 2/51 19/18 21/16	識別記号 B	序内整理番号 F I	技術表示箇所 B 41 J 3/ 10 101 G
--	-----------	---------------	------------------------------

審査請求 未請求 請求項の数7 O.L (全5頁)

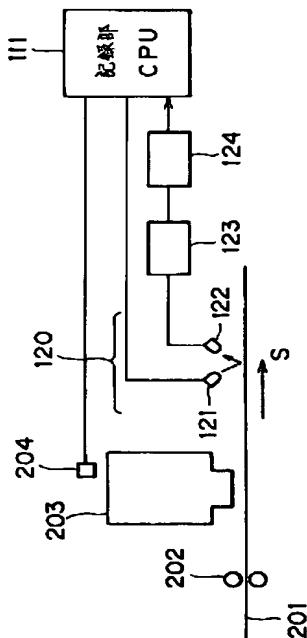
(21)出願番号 特願平6-231362	(71)出願人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(22)出願日 平成6年(1994)9月27日	(72)発明者 寺島 久男 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ ノン株式会社内
	(74)代理人 弁理士 谷 義一 (外1名)

(54)【発明の名称】記録装置

## (57)【要約】

【目的】 特別なハードウェアを設けることなく、また、いちいち手を煩わせずに往復主走査時における記録のずれを補正することができる記録装置の提供。

【構成】 往復の主走査中に記録ヘッドによる記録が行われる記録装置において、組合せにより一体化された連続画像の形成が可能な第1パターンおよび第2パターンにより往復主走査で記録ヘッド203による記録が得られるように制御する制御手段111と、前記画像の連続状態を検知する画像検知手段120と、その連続状態に基づいて往復記録によるずれ量を判断する手段111～113とを具備する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】副走査方向に配列された複数の記録素子を有する記録ヘッドにより前記副走査方向と交差する主走査方向の往復移動中に被記録材に対して記録を行い、1往復の主走査による記録ごとに前記副走査方向の前記被記録材送り動作が繰返えされる記録装置において、組合せにより一体化された連続画像の形成が可能な第1および第2パターンを前記主走査の往路および復路でそれぞれ記録させるように前記記録ヘッドによるパターン記録を制御する記録制御手段と、前記第1および第2パターンにより形成された画像の連続状態を検知する画像検知手段と、該画像検知手段により検知された前記画像の連続状態に基づいて前記主走査の往路と復路とで記録される記録のずれ量を判別するずれ量判別手段とを具備することを特徴とする記録装置。

【請求項2】前記ずれ量判別手段は、前記画像の連続状態によって発生する濃度の変化に基づいて前記ずれ量を判別することを特徴とする請求項1に記載の記録装置。

【請求項3】前記第1および第2パターンは前記主走査方向に対して等しい幅でかつ該幅に等しい間隔を保って配列される複数条からなるパターンであることを特徴とする請求項1または2に記載の記録装置。

【請求項4】前記記録ヘッドは交換自在に装着され、該記録ヘッドの装着を検知するヘッド装着検知手段を有し、該ヘッド装着検知手段からの検知信号に基づいて前記記録制御手段による前記記録ヘッドのパターン記録が行われることを特徴とする請求項1ないし3のいずれかの項に記載の記録装置。

【請求項5】ファクシミリ装置の記録部として機能することを特徴とする請求項1ないし4のいずれかの項に記載の記録装置。

【請求項6】前記記録ヘッドは前記被記録材に向けてインクを吐出して記録を行うものであり、前記画像検知手段はインク切れによる前記被記録材上の記録画像の不良を検出する手段として機能することを特徴とする請求項1ないし5のいずれかの項に記載の記録装置。

【請求項7】前記記録ヘッドはインクを吐出するためのエネルギー発生素子としてインクに膜沸騰を生じさせる熱エネルギーを発生する電気熱変換素子を有することを特徴とする請求項1ないし6のいずれかの項に記載の記録装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、記録装置に関し、特に、ファクシミリ装置等に記録部として使用されるのに好適なインクジェット方式の記録装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、ファクシミリ装置等に採用される

インクジェット方式の記録装置では、記録ヘッドのインク吐出口面に線状に配設した複数のインク吐出口を有し、かかる記録ヘッドを主走査方向に往復移動させながらインクを吐出することによりインク吐出口の配設幅で05一走査分の記録がなされ、そのあと被記録材である記録紙を主走査方向とは交差する方向に前記記録幅分シート送りされて、上述の繰り返しにより1ページ分の記録が行われる。このとき複数の主走査にまたがって形成される画像、例えば縦罫線やファクシミリ受信の記録画像など10の記録時に、記録ヘッドの往時に記録された画像と復時に記録された画像との間に主走査方向のずれの生じることがあるので、記録部の製造時にこのずれを無くすよう15に調整することが必要であった。

【0003】しかして、かかる調整にあたっては、ずれ量が目視でわかるように特定のパターンを記録させ、そのパターン記録を作業者が見てずれ量を判断し、ずれ量の補正值を装置のメモリーに記憶させるか、あるいは装置の往復走査のタイミングにかかるスイッチの設定を行なう等していた。例えば、制御部において、復時に補正值を読み出し、その補正值分だけキャリッジの移動量を増減して復時記録にする位置の補正をするようにしている。

【0004】一方インク切れによる記録不良を検出するために、1ページ分の記録直後の記録紙後端に例えば25数ミリ角の黒ベタ（以下マークと称す）を記録し、これを反射型フォトセンサ等で検出し、マークが検出できれば正常であり、検出できなければインクが途中で切れたと判断してエラーメッセージを表示するようにしているが、これまで、このような検知センサはインク切れを検30知するためのマーク検出専用に設けられていた。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら従来の上35述したような記録装置では往復記録時に発生する主走査方向の記録ずれを調整するのに人手による作業が必要で、生産効率が悪く、コストアップを招く。

【0006】特に交換式記録ヘッドの使用が可能なインクジェット式記録装置では記録ヘッドを交換する際にキャリッジとインク吐出口列との相対位置が常に同じ位置になるよう記録ヘッドの装着部を高精度に作る必要があり、本体および記録ヘッドの生産コストを上昇させる要因となる。

【0007】本発明の目的は、上述したような従来の問題に着目し、特別なハードウエアを設けることなく、しかもいちいち人手を煩わせずに自動的に往復走査時における記録のずれを補正することができ、費用の節減に貢献することのできる記録装置を提供することにある。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】かかる目的を達成するために、本発明は、副走査方向に配列された複数の記録素子を有する記録ヘッドにより前記副走査方向と交差する50

主走査方向の往復移動中に被記録材に対して記録を行い、1往復の主走査による記録ごとに前記副走査方向の前記被記録材送り動作が繰返えされる記録装置において、組合せにより一体化された連続画像の形成が可能な第1および第2パターンを前記主走査の往路および復路でそれぞれ記録させるように前記記録ヘッドによるパターン記録を制御する記録制御手段と、前記第1および第2パターンにより形成された画像の連続状態を検知する画像検知手段と、該画像検知手段により検知された前記画像の連続状態に基づいて前記主走査の往路と復路とで記録される記録のずれ量を判別するずれ量判別手段とを具備することを特徴とするものである。

【0009】さらに画像検知手段としてインク切れセンサを使用することによってハードウェアの追加なしに実現可能である。

#### 【0010】

【作用】本発明によれば、記録制御手段により記録ヘッドの主走査による往路と復路とで第1パターンと第2パターンとが記録されると、第1パターンと第2パターンとの組合せによって形成された一体の連続画像が画像検知手段によって検知され、その検知された画像の連続状態が例えば濃度の変化としてずれ量判別手段により比較判別されるもので、その判別されたずれ量だけ主走査時の往路と復路との記録位置の補正を行うことによりあとはずれの無い画像の記録が保証される。

#### 【0011】

【実施例】以下に、図面に基づいて本発明の実施例を詳細かつ具体的に説明する。

【0012】図1は本発明の一実施例を示す。本例はファクシミリ装置への適用例を示すものである。ここで、1はファクシミリ装置100に組込まれている記録装置（以下では記録部と呼ぶ）であり、101は、ファクシミリ装置100の制御部（以下でFAX制御部という）、102はその読み取り部、103は操作パネル、104は網制御部（NCU）105を介してFAX制御部101に外部の回線Nおよび電話機106を接続するためのインターフェースとして機能するモジュールである。FAX制御部101はマイクロプロセッサー等で構成されるもので、CPU（中央処理装置）107、記憶装置ROM108およびRAM109などからなり、記録画像の入出力、FAX通信処理の全体を制御する。なお、ROM108は後述する制御プログラム等、FAX制御にかかる各種プログラムを格納するものであり、RAM109はCPU107のワークエリアとして使用される外、画像データのバッファメモリとして使用される。

【0013】記録画像を出力する際には読み取り部102を介して記録画像の読み取りが行われると共に外部から網制御部105およびモジュール104を介してFAX制御部101に入力された記録画像を記録部1により記録出力させることができる。すなわち、読み取り部102は読み取

りにかかるCCDセンサ（電荷結合素子センサ）、原稿搬送系（いずれも不図示）等で構成されており、読み取り部102によって読み取られた受信画像データをFAX制御部101により記録部1に送給して記録部1により記録シート上にデータに基づく記録画像が記録される。

【0014】記録部1において、111は記録部CPU、112は記録部CPU111による各種制御プログラムおよびキャラクタジェネレータを格納するROM、113はCPU111のワークエリア、コマンドバッファおよびプリントバッファとして使用されるRAMであり、更に120は本発明にかかり、後述するようにして記録シート上のマークを検出することにより主走査方向の記録のずれを検出するためのマーク検出部である。

【0015】なお、上述の操作パネル103は例えば画像データ送給先のFAX電話番号を入力するためのテンキーや各種のファンクションキーを具える他、入力された電話番号、時刻、先方の名称などが表示可能な表示部（不図示）を具えていて、FAX制御部101を介して上記入出力された数字や文字を表示部に表示することができる。

【0016】図2は本発明にかかる記録部1の走査機構および上述のマーク検出部120の詳細を示す。201は被記録材である記録シート、202は記録シート201を矢印S方向にシート送り並びに搬送する搬送機構の構成要素である搬送ローラ対、また、203は記録シート201に沿って紙面とは鉛直方向に主走査し、走査中に搬送方向（副走査方向）に配設されたインク吐出口、本例の場合64個のインク吐出口からインクを吐出し、記録を行う記録ヘッドユニットである。なお、記録ヘッドユニット203はインタンクと共にカートリッジ式に構成され、不図示のキャリッジに搭載された状態で上記のように主走査する。

【0017】また、記録ヘッドユニット203は交換可能のようにキャリッジの着脱自在に装着されており、204は記録ヘッドユニット203がキャリッジの所定位に装着された状態を検知するヘッド着脱検知センサである。ヘッド着脱検知センサ204では記録ヘッドユニット203がキャリッジに装着されるとこれを検知して記録部CPU111に信号を出し、記録部CPU111により後述する手順によるマーク検出動作を行わせることが可能である。

【0018】121および122はマーク検出部120を構成している発光素子および受光素子であり、発光素子121は記録インクからの反射光が小さくなるように赤色LEDを使用し、マーク検出時にのみ発光させることにより延命を図るようにしている。123は受光素子122からの出力電流に対応してこれを電圧に変換する電流電圧変換部、124は電流電圧変換部123で変換された電圧値をアナログディジタル変換するA/Dコンバータである。かくしてA/Dコンバータ124からの

出力信号により記録部C P U 1 1 1ではマーク検出部1 2 0の受光素子1 2 2で読み取られたマーク情報に基づいて後述するように記録ヘッドユニット2 0 3の走査時に発生する主走査方向の記録のずれを検出する。

【0019】図3は記録ヘッドユニット2 0 3による往復走査時に発生するずれを濃度の変化として検出するために設定した本発明にかかるパターンの一例を示す。ここで、パターンP 1およびP 2はいずれも記録ヘッドユニット2 0 3の有するインク吐出口幅で1ドット分の記録を行った時に得られる縦線が1ドット分の間隔を置いた形で形成されている。ここで、(A)に示すパターンP 1と(B)に示すパターンP 2との間には1ドット分のずれが保たせてある。

【0020】なお、縦線の幅および縦線間の間隔は1ドット分に限られるものではなく、例えば複数ドット分で形成されてもよい。

【0021】そこで、いま記録ヘッドユニット2 0 3の往復走査時の記録において主走査方向のタイミングのずれが無い場合は(C)のパターンP 5に示すように

(A)に示したパターンP 1と(B)に示したパターンP 2とが互いに重ならず、濃淡の均一な角型のパターン(マーク)が得られる筈である。しかし、往路に記録されるパターンP 1に対し、復路において、パターンP 2の記録が同方向、すなわち復路の走査方向に1/3ずれたとすると、パターンP 4のようなマーク記録となり、同じく2/3ずれたとするとパターンP 3のようなマーク記録となる。また、記録ヘッドユニット2 0 3の復路において、パターンP 2の記録が往路の走査方向に1/3ずれた場合はパターンP 6、2/3ずれた場合はパターンP 7に示すようなマーク記録となる。

【0022】本発明は、上述のように往路と復路とで記録されたパターンによるマークの濃度を調べることによって例えば図3の(C)に示すパターンP 3～P 7のうちどれに相当するかを比較し、その濃度の発生状態からいずれの方向にどれだけずれが発生したかを判断し、そのずれ量だけ補正を行うようとするものである。

【0023】図4により補正すべきずれ量を検出するときの制御動作の手順について説明する。

【0024】ずれ補正モードではまずステップS 1において、ヘッド着脱検知センサ(図2参照)により記録ヘッドユニット2 0 3の装着が検知されると、ステップS 2に進み、記録シート2 0 1をマーク記録位置に搬送する。そしてステップS 3およびS 4で記録ヘッドユニット2 0 3による主走査の往路および復路でパターンP 1およびパターンP 2を記録し、ステップS 5でシート送りした後、ステップS 6でパターンP 1、P 2によって形成されたマークを例えばROM 1 1 2に格納されているパターンP 3～P 7の濃度と比較し、その結果に基づいてステップS 7に進み、主走査方向のずれがどのパターンに相当するかによって補正值を求めることができ

る。

【0025】よって、ステップS 3からステップS 6までの手順を5回繰返し、その都度往路と復路とでのパターンP 1とP 2とを順次にずらせて濃度を検出してRAMに格納し、格納された5つの濃度に基づいて最もマークの濃いものがどれであるかを調べることにより補正量を求めることができる。

【0026】なお、以上の説明では、本発明のファクシミリ装置への適用例について述べたが、本発明の適用は、これに限らずシリアル型のインクジェット記録装置を具えた機器は勿論のことこの種のプリンタに広く適用できるものであることはいうまでもない。

【0027】

【発明の効果】以上説明してきたように、本発明によれば、組合せにより一体化された連続画像の形成が可能な第1および第2パターンを前記主走査の往路および復路でそれぞれ記録するように前記記録ヘッドによるパターン記録を制御する記録制御手段と、前記第1および第2パターンにより形成された画像の連結状態を検知する画像検知手段と、該画像検知手段により検知された前記画像の連結状態に基づいて前記主走査の往路と復路とで記録される記録のずれ量を判別するずれ量判別手段とを備備するので、容易に主走査方向の記録のずれを補正することが可能となり、複雑な補正のための手間を省くことができて、製造コストの低減に貢献するのみならず、キャリッジに記録ヘッドを位置決めするにあたり、格別の高精度を要求されなくて済む。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を適用したファクシミリ装置の回路構成を示すブロック図である。

【図2】図1に示す記録部の構成を模式的に示すブロック図である。

【図3】本発明によるマーク検出のための往路に記録されるパターン(A)、復路に記録されるパターン(B)およびパターン(A)および(B)の組合せによる検出パターン例(C)をそれぞれ示す説明図である。

【図4】本発明による記録時のずれ検出動作の手順を示すフローチャートである。

【符号の説明】

- |       |                |
|-------|----------------|
| 40    | 1 記録部(記録装置)    |
| 1 0 0 | ファクシミリ装置       |
| 1 0 1 | F A X 制御部      |
| 1 0 2 | 読取部            |
| 1 0 3 | 操作パネル          |
| 45    | 1 0 4 モデム      |
| 1 0 5 | 網制御部(N C U)    |
| 1 0 7 | C P U          |
| 1 0 8 | R O M          |
| 1 0 9 | R A M          |
| 50    | 1 1 1 記録部C P U |

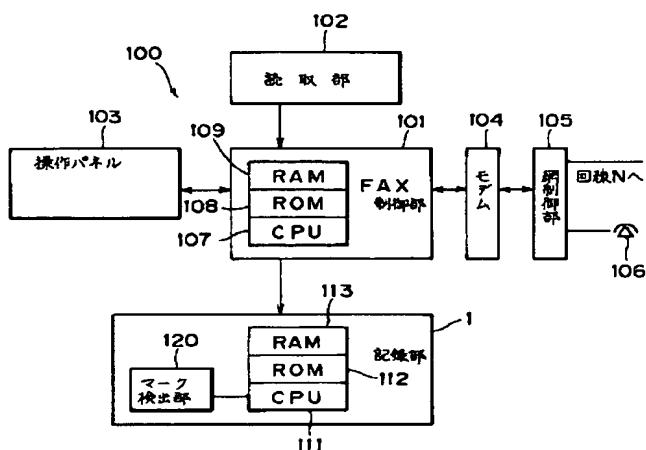
# 記録装置

特開平 8-90835

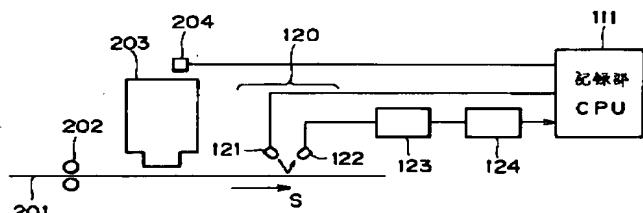
112 ROM  
113 RAM  
120 マーク検出部

201 記録シート  
203 記録ヘッドユニット  
204 ヘッド着脱検知センサ

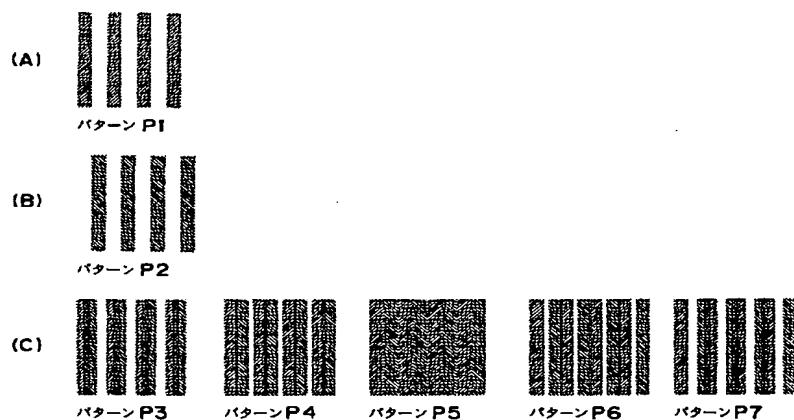
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

